

小学校段階における論理的思考力や創造性、問題解決能力等の育成と
プログラミング教育について（取りまとめに向けたイメージ）

1. いわゆる「第4次産業革命」は教育に何をもたらすのか

（1）「学ぶ」ことの意義の再発見

（2）人間として求められる力の再確認

（3）「次世代の学校」の在り方

2. 「社会に開かれた教育課程」が育む、次世代に求められる資質・能力とは

（1）情報を読み解く

（2）論理的・創造的に思考して課題を発見・解決し、新たな価値を創造する

（3）情報技術を手段として使いこなす

（4）資質・能力の三つの柱と次期学習指導要領の姿

3. 学校教育におけるプログラミング教育のあるべき姿とは

（1）コンピュータと人間の関係に関する展望

（2）学校教育として実施するプログラミング教育の意義

（3）発達の段階に即した資質・能力の育成

4. 小学校教育におけるプログラミング教育の在り方

(1) 小学校教育における具体的な実施の在り方と学習成果

(2) 各小学校の実状を踏まえた柔軟な教育内容の在り方

(3) 学校外の学習機会とのつながり

5. 小学校における効果的なプログラミング教育のために必要な条件とは

(1) ICT 環境の整備

(2) 効果的なプログラミング教育を実現する教材の開発

(3) 社会との連携・協働

学習指導要領改訂の方向性（案）

新しい時代に必要となる資質・能力の育成

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な知識や力を育む

「社会に開かれた教育課程」の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた 教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共（仮称）」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

学習内容の削減は行わない※

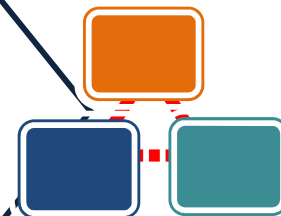
どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得
など、新しい時代に求められる
資質・能力を育成

知識の力を削減せず、質の高い
理解を図るための学習過程
の質的改善

深い学び
対話的な学び
主体的な学び



※高校教育については、些末な事実的知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革等を進める。